

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより

13 号



讃美歌

資料センターが所蔵する明治期発行讃美歌集のうちの3点。
左上から『譜付 リバイバル唱歌』、右上『日曜学校聖歌集』、
下『讃美歌』。詳細は、今号掲載の本学名誉教授 氣賀健生先生
による資料センター所蔵資料紹介 (pp2~3) をご参照ください。

資料センター所蔵資料紹介

讃美歌（続き） 氣賀健生 — 2

青山学院女子専門部と女子専門学校 鵜飼栄子 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内 — 8

讃美歌 続き

青山学院大学名誉教授 氣賀健生

今回は、日本のプロテスタント・キリスト教の黎明期であった明治時代に出版された讃美歌集について、その主要なものを幾つか紹介致しました。これらはいづれも超貴重史料として、当資料センターに所蔵されているものですが、今回はその続編として、それに劣らず珍しい讃美歌集や、それらに関係する文献を紹介致しましょう。

まず『明治初期讃美歌』神戸女学院図書館所蔵オルチン文庫版覆刻12冊及び解説。1978年新教出版社版、一部4,000円で350部限定。前回、エキュメニカル(超教派)讃美歌としては最も古いと推定される『新撰讃美歌』と紹介したものの覆刻版を中心として、立派な箱入りで歌譜なしの小さな讃美歌“讃美の歌”“教えのうた”など10冊が共に収められています。

ところで、ここに出てくるオルチンGeorge Allchinですが、前回には「オルチンは日本の讃美歌史上重要な人物」とのみ紹介しましたが、実は明治から大正期にかけて、日本のプロテスタントの諸教会に讃美歌を“定着”させた宣教師として、忘れることのできない人物です。彼は組合教会The Congregational Churchのアメリカン・ボードThe American Board of Commissioners for Foreign Missionsによって1882(明治15)年から1920(大正9)年まで38年間にわたり、大阪、神戸を中心として主に関西方面で伝道し、中でも神戸女学院のためにつくした人物です。

さて、それでは明治時代に書かれた(ということは、まとまったものとしては最も古い)讃美歌史を次に紹介しましょう。海老沢亮編著『讃美歌歴史』428頁。明治43年教文館発行。次のような著者の言葉に時代を感じます。 “詩歌と音楽とは最も宗教上の感想を表すに適當…。古来いづれの宗教にも詩歌音楽は必ず其礼拝の主要な部分たり…。基督教会の信仰は浩瀚なる神学書よりも寧ろ讃美によりて其眞相は表はれたりといふを得むか。宗教は人間の知性よりも寧ろ情意の上の

事実なればなり。”この最後のひと言などは、まさに明治時代の感覚をあらわしているといつてよいでしょう。そしてこの本の序文にある次のような文章はまさに著者の精神を表していると思うので、少々長くなりますが、以下に引用しておきます。

「宗教心のある處必ず讃美の精神あり。讃美の精神の発動する處必ず音楽の響あり。^{いにしえ}古ヘイスラエルの祖先が縦琴を奏でてより、基督教会二千年の歴史に通じて、何れの時代か讃美歌の聴かれざりし事あらんや。之れ蓋し美はしき宗教的情緒の発聲は、此機関によるの外其途なきを示すなり。斯くて靈の意義に於ける音楽は基督教会の所産なりといふべし。されば音楽は即ち靈魂の歌にして、讃美と音楽とは嚴密の意義に於て両者別物たるを許さず。『詩と歌と靈に感じて作れる譜とをもって神を讃美する』處に人間天性の流露を見るなり。故に讃美歌の教會に用いらるるや決して偶然に非ず。之れ実に説教以上の説教、祈祷以上の祈祷^{まこと}にして、天が人の靈魂に及ぼす影響たるや寔に至大なるものあり。」

以下当資料センターが所蔵する貴重讃美歌を順次紹介しましょう。

エー・エル・ハウ撰『クリスマス唱歌』譜附23曲

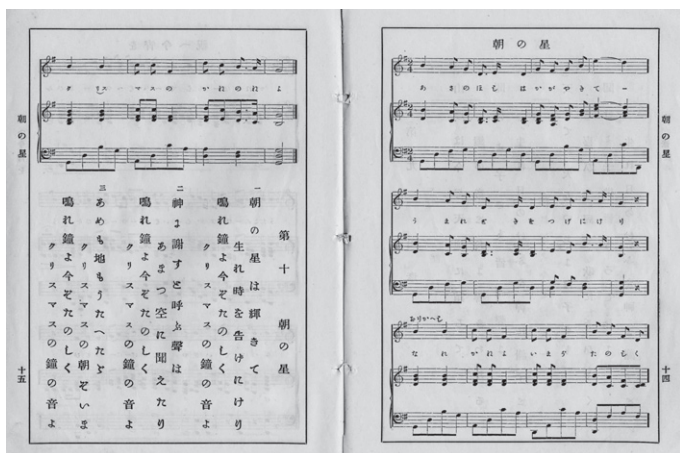
次のような注釋がついています。

「此書^{あつ}輯むる所の唱歌ハ多くの唱歌集より音曲の雅にして廣く世に行はるる所のものを採りたるものなれ^{ただ}バ啻に少年のみならず年長者の用にも亦適すべし

唱歌の翻譯ハ作歌者として有名なる大和田建樹君の手になり印刷に関する一切の事務は先年幼稚園唱歌出版の事を擔當されし大賀壽吉君の手になりたり。」

明治27年11月5日神戸に於て

アンニー・エル・ハウ



『クリスマス唱歌』より

『譜附リバイバル唱歌』 122 曲 (表紙写真)

以下注釋。

「この歌本はリバイバル唱歌と云ふ新しい名を以て顯れましたが歌の大部分は從來廣く愛用せられたる救の歌及び福音唱歌より撰んだもので新しきものは50許^{ばかり}であります。これらは近頃歐米に於て盛んに歌はれ居るものであります。言葉は極めて平易で誰にも合點行くやうに出来て居ります。歌ひ方は從來の如く^はらんとあるのがらんと^{ことごと}の二音でなく一音で歌ひ又漢字に振假名したる者例へば^{しん}信とあるのは悉く一音で歌ふのであります。願くは神この歌本を祝して多の靈魂を救ひ聖徒を恵の深所に導き入れ給はんことを。アーメン」

主降生千九百九年春 中田重治
坂井勝次郎

『日曜学校聖歌集』 (表紙写真)

明治34年 教文館発行

エム・ビー・ジョーンズ

ジー・シー・グレン

全57曲 (第56曲に君が代が入っている) 下の注譯。

「幼男幼女の力に適したる聖歌の必要は、今日に初まりしにはあらず。日本の伝道に着手したる當時より已に此の必要ありたるなり。」

尾島眞治『讃美歌説明』 譜なし 461 曲

明治43年 警醒社発行

この“説明”には次のような序文があります。「宗教と音楽とは断つべからざる関係あり。是れ音楽は人心の感興を表はすに缺くべからざるものにして、宗教は人心の感興を最も強く且深からし

むるものなるが故なり。されば二千年の教會歴史を通覧するに、宗教信仰の復興せる時代に於ては必ずや多くの新讃美歌現はれ且つ盛に行はれたり。第16世紀の始、宗教改革の大事業起るや、マーテン・ルーテルは三つの方法を以て大に之に貢献したりき。福音的説教演説は其一也、聖書翻譯及註釋書著述は其二なり。而して讃美歌の翻譯及著作は其三にてありき。敬虔の念深く学識高きが上に、常識に富める彼は、斯くも聖音楽がその改革事業に大関係ある事を察知したり。故に彼は之を婦女子の楽事として軽く看過せず、讃美歌の翻譯及び著作を以て、聖書の翻譯及び註譯と同様、甚だ重んずべきものとなし…。」

以下明治初年刊の讃美歌集数点を紹介しておきましょう。いづれも楽譜なし小型です。

『讃美歌』(表紙写真)103曲。明治18年刊 東京・江藤蔵版 売捌所警醒社

『讃美歌』107曲 明治20年2月刊 東京江藤書店刊 耶蘇教書類大賣捌所

『新製讃美歌』14頁 15曲 明治33年刊 西田秀典編 警醒社発行 (極めて小さい)

“The New Church Hymnal for Churches and Mission Schools” Compiled by T.L. Cowen, Methodist Publishing House, Tokyo 1901

『福音唱歌』 三谷種吉著 104曲 教文館刊 明治37年

『讃美歌』465歌曲 讃詠・使徒信条・十戒・君が代を含む。明治36年刊 教文館・警醒社発行

『基督教聖歌集』耶蘇降生千八百八十五年 明治18年 美以美教会雜書会社 日本横浜刊行 244曲+讃詠 超小型帙入り

最後にひとつだけプロテスタント系でない讃美歌を紹介しておきましょう。

『公教聖歌』楽譜附 262頁 歌詞は全部カタカナで、ラテン語110曲、フランス語28曲、日本語33曲、千九百十一年九月八日、聖母御誕生の祝日、発行者アンリ・ドマンジェル 玫瑰社発行

当資料センター所蔵の讃美歌はまだまだありますが、以上一応主なものを紹介致しました。

青山学院女子専門部と女子専門学校

青山学院女子専門学校家政科 昭和23年卒 鵜飼 栄子

青山学院の歴史と我が家

昨年創立140周年を迎えられた青山学院は、米国のメソジスト教会の祈りの中から創められました。ジョン・ウェスレーの精神に立つ青山学院に、世界伝道を志す宣教師が伝道と教育を目的として派遣されました。その頃日本の女子教育を中心に考えられて、これを推進する津田仙と共に女子小学校を設立。始めは男女の別なく5、6人が集められました。(後の青山学院の女子校の前姿)

この学校に、津田家の遠い親戚で、梅子女史が留学中に世話になっていた岩村千代(私の祖母)も入学し(12歳)、5年間学びました。

千代は3人の子供をあたえられ、長男(道雄)霊南坂教会牧師、長女(安子・私の母)めぐみ教会牧師の妻・キリスト教保育連盟創立者・元同理事長、次女(弘子)高等女学部・女専英文科卒、高田重正医師と結婚、それぞれ幸せな人生を送った。私も銀座教会伝道師の鵜飼勇と結婚、鎌倉4年、銀座42年の牧師の妻として歩みました。夫の父(猛)はメソヂスト教会牧師として84歳まで4つの教会に仕えました。長兄鵜飼信成(元ICU学長)も、次兄関口和夫(歯科医師)も、姪荒井民子(初等部英語講師)も、岩村家も父岩村清四郎、兄信二、共にめぐみ教会牧師、兄平田洋三(医師)、甥上原行義、鵜飼家及び岩村家の息子・娘も、孫ひ孫も青山学院関係者です。只今、青山学院出身者は50名以上になります。親戚の集まりは青山の話でもちきりです。

さらに津田家との関わりは、仙の息子次郎のところに鵜飼猛の妹ですが嫁ぎ、長男守氏と道夫氏は私のいとこになります。津田の祖先是岩村家と姻戚関係となります。ふしぎな神の導きです。同時に両家とも青山学院の歴史に深くかか

わり、今日まで続いていることは神の恵みとし
か思えません。

女子専門部、女子専門学校(=女専)時代のこと

長い尊い歴史のある女専と私とのつながりは、終戦の年の2月の入学試験から始まります。昭和20年は、日本中が戦時体制、敗戦の雰囲気満ちていました。当時17才の私は入学試験の日、只ならぬ緊張の中で青山学院女子専門部の門をくぐりました。女専の校舎の教室に番号順に坐り、家政科のテストを受けました。試験問題に「ミカンの皮の効用について」とあり、頭をふりしぼった事を覚えています。3月に合格の通知を頂きましたが、東京都内は大空襲の連続、「入学式はいずれお知らせします」とあり落ちつかない日々でした。5月は青山学院の大半が焼夷弾で焼失、我が家も同日すべてを失いました。6月に入学式のお知らせがあり喜びながら渋谷駅に来てみると、駅の廻りも宮益坂辺りも焼跡、やけぼっくいの中をやっと学院の正門に辿りつきました。夢にまで画いた青山学院は、わずかに大講堂、間島記念図書館、本部礼拝堂等が残っていました。私達は大講堂に集合し家政科1年A・B、国文科1年A・B、専修科と並んで坐りました。講壇の先生方も悲壮



女専学生 昭和23年1月頃、左が岩村(鵜飼)栄子

な面持ちで迎えて下さいました。級の名簿を呼び上げる小林れい子先生の慈愛に満ちた顔が忘れられません。当日は半数位（70名中40名）が集まり、後は疎開や不明でした。然し翌日から授業が始まりました。女専の建物は全焼失で、高等女学部の空いている教室を使わせて頂き、国語、算数その他、と受講いたしました。教科書も薄いザラザラの小冊子を頂いたように思います。8月終戦の詔勅はやけあとのお薯畑で伺いました。各学年御一緒に大き



小林千代先生と裁授業風景

いスピーカからながれる天皇陛下の少しかすれたお声の「汝臣民に告ぐ」を伺いました。カンカンと照りつける夏の太陽の下で倒れる者もなく、この日のことは一生忘れられません。教室に戻った私達は互いにぶじを喜び、新しい希望に心ときめかせました。私達は昭和の始めの生れ！戦争の足音と共に今日を迎えたのです。これからは失ったものを取り戻して先に向かって歩いていくしかありません。女学生時代に学問を国に献げ工場動員し働いて過ごしましたから、殊に英語禁止の2年間（中3から高1まで）は泣きたいほど辛く70年経った今日までその穴は埋りません。

昭和21年のある日、大礼拝堂（毎朝2時限と3時限の間に礼拝あり）で古坂嵩城女子専門部部長が「貴女たちは女子専門部に入学されましたが、今日から学制が変わって女子専門学校になります。これは一般の男子大学と同じで格が上がりました。堂々と頑張ってください」。私達はそれから頂く書類が女子専門学校と書かれたのをまぶしい思いで見えておりました。

女専・YWCA のこと

この暗い辛い時代の中でも私達の中に新しい運動が始まりました。YWCA（＝YW）です。女専YWは古坂嵩城先生、向坊長英先生、氣賀重躬先生、左近孝江先生の御指導で自然の中に始まりました。主を讃美する美しい讃美歌をうたう学生が放課後音楽室に集り誰となく始まりました。このグループは後々先生方の指導でKAYの会員にもなりました。一方、主のみことばをもっと深く学びたいと聖書研究グループも始まりました。

YWはうたう人、学ぶ人の他に奉仕する人も生みだしました。春・夏休みの何日か、御殿場コロニーに申出で、おむつたたみ、こどもの指導等をし、社会人になっても続ける方も生れました。戦后日本は生れ代ってキリスト教を取り入れ、どこの大学でも職場でも若者を中心に動きだしました。教会も求道者が増え献身者も大勢生れました。昭和22年のYWの会員は全学1,100人中800人となりました。その年、YWの会長に選ばれました。殆ど毎日放課後の会があり夏休みの修養会は国領・レーシー館・御殿場東山荘を拝借し、すばらしい講師をたのみ、悔い改めて受洗する人が大勢与えられました。私共のクラスでは、入学時は70余名中5名のクリスチャンホーム育ちの受洗者がありましたが、3年后卒業時には20名が受洗しました。当時の教会は阿佐ヶ谷、銀座、美竹、信濃町等です。卒業後も個人的に先生宅に伺う方もありハンセン病のこどもの為に献身された方もおられます。その後70年後の最近の事を申しますと私は級会に伺うと、「子供の幼稚園選びに教会の幼稚園を探して遂に私もクリスチャンになったの…」とか、「ご近所の教会にいき洗礼を受けたのよ」等うれしいお声をいただきます。神様は戦後のあのささやかな働きをおぼえて、一人一人に働きかけて下さったことを実感します。その時、建学の精神ジョン・ウェスレーの最後の言葉「もっとも良いことは神が偕にいて下さることをおぼえること一」が心に響きます。

私達は時が良くても悪くても神を見上げて力強く歩みたいと思います。戦後の女専の働きを心より感謝して終りにいたします。

2015 年度前期利用状況

1. 展示見学・資料閲覧 () 内は前年度の数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
展示見学者数 (2014年11月オープン)	377	214	535	305	620	161	2,212
資料閲覧者数	7 (15)	13 (23)	12 (18)	20 (33)	16 (2)	13 (11)	81 (102)
閲覧者の区分	本学学生	1 ()	1 ()	2 (5)	1 ()	0 (1)	16 (25)
	現教職員	3 (3)	7 (11)	2 (2)	4 (6)	5 (5)	33 (29)
	旧教職員	0 (10)	1 (4)	2 (3)	1 (2)	0 (2)	4 (21)
	校友	0 (1)	0 (2)	1 ()	1 (2)	0 ()	5 (6)
	他大学教員	0 ()	1 (6)	2 (6)	0 (2)	1 (2)	7 (16)
	牧師	0 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	1 ()
	一般	3 (1)	3 ()	2 (2)	3 (2)	0 ()	15 (5)
利用の目的	教会史編集	0 ()	0 (2)	1 ()	0 ()	0 ()	1 (2)
	学校史編集	0 (1)	1 ()	1 (3)	1 (2)	3 ()	8 (7)
	著述・論文作成	3 (9)	9 (17)	3 (9)	8 (12)	8 (1)	33 (51)
	伝記資料調査	1 ()	1 (4)	1 (5)	2 (3)	1 ()	7 (14)
	記録類の調査・研究	1 ()	6 ()	4 (2)	3 ()	7 ()	24 (5)
資料の種類	その他	3 (5)	3 (5)	3 (3)	5 (18)	1 (1)	18 (34)
	青山学院史関係 (AA)	4 (14)	11 (12)	8 (11)	14 (28)	11 (2)	55 (73)
	メソジスト教会関係 (B)	2 ()	1 (11)	1 (4)	2 (6)	1 ()	9 (23)
	英語・英文学関係 (F)	0 ()	2 (1)	0 ()	1 ()	0 ()	3 (1)
	明治期キリスト教関係 (G)	2 ()	1 ()	2 (3)	0 (2)	0 ()	7 (5)
	一般分類図書	1 ()	0 (4)	1 ()	2 ()	0 ()	4 (5)
	その他	0 (1)	1 ()	0 (1)	0 ()	3 ()	5 (4)
資料の形態 (閲覧点数)	図書	21 (12)	32 (40)	49 (34)	71 (154)	153 (5)	377 (273)
	マイクロフィルム	1 ()	1 (24)	3 (7)	5 (7)	0 ()	10 (38)
	写真 (含ネガ)	0 (1)	4 ()	0 (2)	0 ()	4 ()	10 (5)
	アルバム	0 (3)	0 ()	0 ()	0 ()	0 (4)	0 (7)
	個人資料ファイル	0 ()	0 ()	0 ()	0 (1)	0 ()	3 (1)
	ビデオ・DVD等	3 (2)	0 ()	0 ()	0 (2)	22 ()	25 (5)
その他	0 (5)	6 ()	2 ()	0 ()	6 ()	1 (1)	15 (6)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. レファレンス () 内は前年度の数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
件数	7 (7)	15 (12)	5 (7)	7 (6)	0 (1)	6 (7)	40 (40)
質問者の区分	学生	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 (1)
	現教職員	6 (4)	10 (5)	0 (1)	7 (1)	0 ()	25 (15)
	旧教職員	0 (1)	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 (1)
	校友	1 ()	1 (1)	2 (2)	0 (1)	0 ()	4 (4)
	一般	0 (2)	4 (6)	3 (4)	0 (3)	0 (1)	11 (19)
質問内容	文献所蔵調査	1 (2)	2 (2)	2 (3)	1 (1)	0 (1)	7 (11)
	写真所蔵調査	1 ()	1 (3)	1 ()	1 ()	0 ()	7 (5)
	事項調査	5 (5)	8 (9)	2 (3)	5 ()	0 ()	22 (18)
	その他	0 ()	4 ()	0 (1)	0 ()	0 ()	4 (3)

※質問内容は重複回答あり

3. 日誌抄



4月

- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため (4回)
- ・大学名誉教授来室、150年史編集のため
- ・学内教員来室、年史編集ほか
- ・来客10名
- ・大学図書館へ、明治期キリスト教関係図書の一般分類登録作業依頼
- ・TBS「噂の東京マガジン」番組のため、間島記念館バルコニーにおいて撮影
- ・150年史編集事務打合せ

5月

- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため (9回)
- ・大学名誉教授来室、150年史編集のため

- ・学内教員来室、年史編集ほか
- ・学生来室、資料閲覧ほか
- ・来客8名
- ・大学図書館へ、明治期キリスト教関係図書の一般分類登録作業依頼 (2回)
- ・校友来室、緑岡初等学校集団疎開の本の発行の打合せ (2回)
- ・150年史編集室事務打合せ
- ・第2回『青山学院150年史』編集委員会
- ・講談社による、杉本鉦子解説書著作のための写真・資料閲覧

6月

- ・大学名誉教授来室、原稿作成のため (8回)
- ・大学名誉教授来室、150年史編集のため来室 (3回)
- ・学生来室3名 (資料閲覧ほか)
- ・来客6名
- ・大学図書館へ、明治期キリスト教関係図書の一般分類登

録作業依頼

- ・ 校友来室、緑岡初等学校集団疎開の本の発行の打合せ
- ・ 150年史編纂室事務打ち合わせ
- ・ 150年史編纂本部会議事前打合せ
- ・ 2015年度第1回資料センター運営委員会開催
- ・ リードオルガン2台修理へ
- ・ 第2回『青山学院150年史』編纂本部会議開催

7月

- ・ 大学名誉教授来室、原稿作成のため（9回）
- ・ 大学名誉教授来室、150年史編纂のため（2回）
- ・ 大学名誉教授来室、閲覧
- ・ 学内教員来室4名、資料閲覧ほか
- ・ 学内職員来室、資料閲覧ほか
- ・ 学生来室4名、資料閲覧ほか
- ・ 大学院生来室、3Dプリンター利用
- ・ 来客3名
- ・ 大学図書館へ、明治期キリスト教関係図書の一般分類登録作業依頼（2回）
- ・ 150年史編纂事務打合せ
- ・ 150年史編纂のためのインタビュー実施

- ・ 『Aoyama Gakuin Archives Letter』12号発行
 - ・ NHK・BSスペシャル「武士の娘」放映のための資料撮影
- 8月**
- ・ 大学名誉教授来室、原稿作成のため（4回）
 - ・ 学内教員来室3名、資料閲覧ほか
 - ・ 学内職員来室1名、資料閲覧ほか
 - ・ 来客2名
 - ・ 大学オープンキャンパスの手伝い（1人）

9月

- ・ 大学名誉教授来室、原稿作成のため（8回）
- ・ 学内教員来室3名、資料閲覧ほか
- ・ 大学院生来室、3Dスキャナー利用
- ・ 来客14名
- ・ 大学図書館へ、明治期キリスト教関係図書の一般分類登録作業依頼
- ・ 防災訓練参加

指定寄付

- ・ 資料センターの活動費として、1965年青山学院大学経済学部商学科K組卒業生有志の方たちより20,000円
- ・ 資料センターの運営費として、南真理子様より10,000円

2015年度前期受入れ

資料

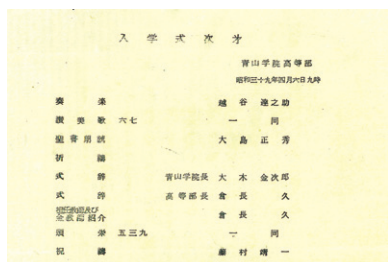
(学内部署からの資料は除く)

寄贈

- ウェスレー・ファウンデーション様より、戦前メソジスト教会関係文書、キリスト教会関係資料多数
- 佐々木竜太（校友）様より、「明治中期における私立中学校認可をめぐるキリスト教主義学校の対応に関する研究—青山学院中学部を中心に—」佐々木竜太著（『青山学院大学教育人間科学部紀要』第6号抜刷）2015年3月 ほか1点
- 花村紀彦（校友）様より、『世の光たれ！』関西学院高等学部商科開設100周年記念誌編集委員会編 2014年7月
- 滝澤民夫様より、『『家庭婦人』（1898年11月）誌にみられる「バーナードホームの働く女性たち」滝澤民夫著（『石井十次資料記念館研究紀要』別冊Ⅲ抜刷）2015年3月
- 聖路加国際大学様より、『写真でみる聖路加看護大学の50年』聖路加国際大学 2015年3月、ほか1点
- 氣賀健生（校友・大学名誉教授）様より、『田園都筑教会10年史』田園都筑教会10年史編集委員会編 日本キリスト教団田園都筑教会 2015年3月
- 飯久保知信（校友）様より、校友・飯久保貞次書染付風呂敷、ほか2点
- 落合功（経済学部教授）様より、『2011 青山学院大学体育会拳法部 創部50周年記念誌』青拳会・50周年記念誌編集委員会編 2012年2月
- 竹内正徳（校友・元職員）様より、竹脇無我（校友）サイン色紙
- 大宅緒様より、「柴田すゑの肖像—洗足学園校歌を作曲した音楽教育家の歩み—」大宅緒著（『平成26年度洗足論叢』第43号抜刷）2015年2月
- 山内晴子（校友）様より、『研究資料シリーズNo.5 朝河貫一資料 早稲田大学・福島県立図書館・イエール大学他所蔵』山岡道男・増井由紀美・五十嵐卓・山内晴子・佐藤雄基著 早稲田大学アジア太平洋研究センター 2015年2月

- 奥原ジョージ様より、『静かなヒーローたち 一世紀にもわたって、日本と日系人を助けてくれたアメリカ人クエーカーたちの愛の記録』杉村宰著 東洋宣教会・北米ホーリネス教団 2014年4月、ほか1点
- 吉岡勝見（校友）様より、『青山学院大学グリーンハーモニー合唱団 OBニュース』51号 2015年4月
- 吉田恵子（校友）様より、「青山学院高等部入学式次第」1964年4月6日（次頁写真①）、ほか 17点
- 中村隆（校友）様より、本多庸一書軸「吾等は聖書の教ふる所により〜」（複製）
- 井筒明夫（校友）様より、『小鳥と友になる為の『三つの心得』』CD IZUTSU LAB OF BIRD HABITAT 2015 ほか4点
- 青山学院高等部同窓会様より、『青山学院高等部同窓会報』69号 2015年6月
- 吉田博様より、『川越教会史年表—1942年～1963年3月—』日本基督教団川越教会年表作成委員会編 川越教会 2014年4月
- 文学部英米文学科同窓会様より、『Aoyama Sapience』第29号（2013年7月）、ほか1点
- 岸甫一様より、『Hakodate Through 150 Images Japan's Surprising Pioneer』はこだて外国人居留地研究会「第二の開港」プロジェクト立ち上げチーム 2015年6月
- 加納孝代（女子短期大学名誉教授）様より、『～歴史の交響～活水学院と長崎プロテスタント教会の百二十年』2015年5月
- 内田義雄様より、『武士の娘—日米の架け橋となった鉦子とフローレンス』内田義雄著 講談社 2015年6月
- 芹川哲世様より、『韓国メソジスト教会 開拓宣教師の影響と教訓』（ハングル語）2015年3月、ほか3点
- 関田寛雄（校友・大学名誉教授）様より、『あなたはどこにいますか 関田寛雄講話集』関田寛雄著 一麦出版社 2015年3月
- 雨宮剛（校友・大学名誉教授）様より、「陸軍特攻第六十五振武隊 石塚糠四郎（校友）少尉の出撃」大西誠一郎（校友）著 2010年10月（コピー資料）、ほか7点
- 村上昇男様より、『落合楼物語』久保博司著 豊田利男編 落合楼村上 2013年11月
- 早瀬圭一様より、『聖路加病院で働くということ』早瀬圭一著 岩波書店 2014年10月

- 宮野良子様より、『船沢小学校百年誌』船沢小学校百年誌編集委員会編 船沢小学校創立百周年記念事業協賛会 昭和62年9月
- 倉敷伸子様より、『小金井聖公会 草創期から聖堂建設までの歩み 一年譜周辺からの探訪』倉敷信著 2015年(私家版)
- 西川治(校友)様より、『世界の知圏を広げる — GEOSOPHY—』西川治編著 2015年6月(私家版)
- 羽坂勇司(校友・元理事長)様より、『見て楽しい歯の博物館 History of Dentistry in Japan and West』大野爾英・羽坂勇司・高橋紀樹編 わかば出版 2015年6月
- 全国大学史資料協議会東日本部会事務局様より、『第2回全国大学史展 学生たちの戦前・戦中・戦後』全国大学史資料協議会東日本部会 2015年7月
- 講談社様より、『今を生きる「武士の娘」鉦子へのファンレター』星野知子著 講談社 2015年8月
- Reedy, David W. (理工学部教授)様より、青山学院創立八十五周年記念シール
- 徳永勉(校友)様より、『基督教三綱領』明治44年3月17版(写真②)ほか2点
- 藤井清邦様より、『平和への希望と祈り 長崎被爆70年記念誌』藤井清邦ほか著 長崎キリスト教協議会 2015年8月
- 大学電気電子工学科同窓会様より、『青山学院大学電気電子工学科同窓会報』第19号 2015年9月
- 青山学院大学同窓祭実行委員会事務局様より、『第22回青山学院大学同窓祭プログラム AOYAMA GREEN FESTIVAL 2015』2015年9月
- 他大学・学校紀要類多数



写真①高等部入学式次第(部分)



写真②基督教三綱領

購入

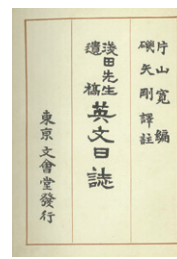
- 『女性讃美と母性崇拜』賀川豊彦著 豊文書院 昭和12年
- 『新案英語かるた』長井氏録編 博文館 明治43年(写真③)
- 『小さき花 聖女テレジア自叙伝』宮城春江訳 新生堂 昭和12年
- 『しづけきいのり』宮城春江訳 教文館 昭和18年
- 『価値あるもの What is Worth While?』宮城春江訳 教文館 昭和10年
- 『キリスト教学校教育史話』大西晴樹著 教文館 平成27年
- 『みやまにむかひて』宮城春江訳 教文館 昭和13年
- 『Tochter Der Samurai』ETSU INAGAKI SUGIMOTO(杉本鉦子)著 ドイツ 昭和32年(写真④)
- 『完全に聖潔め』ジェー・オー・スペンサー、浅田榮次合譯 美以雅書會社 明治21年
- 『佛教管見』浅田榮次、植村正久著 木村鷹太郎跋 田中達著 メンヂスト出版舎 明治28年
- 『浅田英語讀本字書』巻1〜巻5号合巻[浅田榮次著]深谷書店 明治43年
- 『浅田先生遺稿 英文日記』浅田榮次著、片山寛編、磯矢剛訳註 文會堂書店 大正5年(写真⑤)
- 『絵とき英語 ショクブツヘン第一集・ドウブツヘン第一集』岡倉由三郎、和田三造共著 教育資料研究所 昭和10年



写真③「新案英語かるた」(部分)



写真④『Tochter Der Samurai』



写真⑤『浅田先生遺稿 英文日記』(中表紙)

青山学院資料センター利用案内

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。入場無料
公開時間 月〜金曜日 ▼9:30〜17:00(入館は16:30まで)
土曜日 ▼9:30〜13:00(入館は12:30まで)

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。
閲覧時間 いずれも昼休み11:30〜12:30
月〜金曜日 ▼9:30〜17:00 土曜日 ▼9:30〜13:00

●休室日

日曜日・国民の祝日・夏期期間・クリスマス12月25日(金)・年末・年始<12月26日(土)〜2016年1月4日(月)>・その他青山学院が定める休日

●お問い合わせ

TEL 03 (3409) 6742 FAX 03 (3409) 8134
メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp
青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらをご覧ください。
<http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/>

資料センター運営委員

院長(職務上)	梅津 順一	高中部(高)	教員1名	佐藤 隆一
常務理事1名(職務上)	楯 香津美	高中部(中)	教員1名	伊藤 秀行
学院宗教部長(職務上)	シュエ士戸 ポール	初等部	教員1名	窪田 靖
大学図書館長(職務上)	三村 優美子	幼稚園	教員1名	川島 祥子
大学 教員1名	清水 信行	総局長(職務上)		伊豆 一男
女子短期大学 教員1名	谷本 信也	資料センター事務長(職務上)		傳農 和子

資料センタースタッフ人数

資料センター事務：
専任 2人
パートタイム 3人
(述べ週5日・2人)
『青山学院150年史』編纂事務：
有期職員 1人
パートタイム 2人
(述べ週3日・1人)

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 13号

2015年12月15日

青山学院資料センター編・発行



印刷：三美印刷株式会社
1,500部